

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社 ピュアロージュ		
事業所名	グループホーム 亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9番6		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2691600049&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成24年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

提供するサービスの向上は、作りだしている各職員のスキルアップが重要である観点から、外部研修の参加をする事で進めた。また、事業所内の内部研修についても事業所の職員として知っておくべき内容を選択し、年間計画を立てて取り組む事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事委員会が食事サービス向上に向けて、小規模多機能とグループホームが同じ献立だったが、別献立にして夫々に内容の充実と、食事作りで利用者の関わる時間を増やしている。など利用者が日々の生活に張りあいを持つるように、一人ひとりの思いや力を活かしながら、利用者と職員が一緒にする作業内容や役割分担の工夫をして出来る事を増やすケアに取り組んでいる。職員が常に目に触れる休憩室に地域行事も組み込んだ年間行事予定と、目標達成計画を掲示して振り返りの機会としたり、職員が気づいた事を記入する「意見ノート」から会議の議題を取り上げて提案している。など職員が自信を持って仕事に取り組めるように、一人ひとりの力量を高め、事業所全体のレベルアップに繋げる事を目指して取り組んでいる。グループホーム連絡会で[東北大地震の実体験]の話聞き職員の防災に関する意識を高めるように事業所内でも活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①地域のサークル活動やイベントを通じ、外出の頻度、地域との係わりを増やす。②職員の防災意識を高める。③グループホーム独自の献立を作成し、利用者様の希望が多く反映される。以上3点を目標とした。	法人理念「人と共に」「地域と共に」「自然と共に」に沿い実践を行っている。、利用者の外出の頻度を増やす為にも地域の催しの把握や職員の防災意識を高めていく取り組みそしてグループホーム独自の献立作成と利用者の方をを活かす時間を増やす工夫をしている。	事業所が向かう方向性を出していく独自の理念を職員で話し合い作る事をお勧めする。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所所在地の地域の公民館の清掃活動、町民文化祭への出展、小学校の運動会見学・音楽会を通じて地域との交流を持った。	地域の人と共に行う公民館の清掃活動に参加し、周辺地域の清掃も事業所独自の取り組みとして行っている。「朝市」や「かね新商店」へ買い物に行き、顔を合わせたら挨拶を交わす関係になっている等地域の一員として生活出来るように努めている。地域での認知度を高めて行こうと「夏祭りや」「オープンハウス」を行い、回覧板やポスターとチラシで周知をする等取り組みが、参加者はまだ少なく今後の課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を地域との係わりの窓口として、委員会メンバーの一人である町内会長、民生委員に講演等が出来る事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報として、町民文化祭の開催予定がある事を知り得て、参加した経過がある。	市の担当課や地域包括支援センター・町内会会長・民生委員・家族会正副会長のメンバーで隔月に開催している。活動報告や情報・意見交換などの様子が、議事録で確認された。一例として、町内会会長から、文化祭開催の情報を貰って利用者と一緒に参加をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、利用者様の現状報告、事業所の活動報告、現在の利用者数等を報告している。	市の担当課は運営推進会議のメンバーでもあり、議事録の提出等で訪問し話し易い関係が築けている。府主催のグループホーム連絡会に出席すると共にケアマネジャー連絡会とも、常に連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束マニュアルの作成②施錠をしない事への伝達③身体拘束に対する内部研修を年間研修計画に位置付けており、今年度は、12/14に開催した。	身体拘束をしないケアの方針はあるが、マニュアルの作成までには至っていない(24年度作成予定)自己啓発委員会で「身体拘束をしないケア」の内部研修を行い、職員で共有している。出入口の施錠はしていない。利用者が出掛けたい素ぶりや表情に気がついて、出掛ける時は一緒について行っている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている			

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を使っている方がいるが、それに対して管理者や職員が学ぶ機会は設けていない現状がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に契約・重要事項説明を書面で実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催を年2回実施できた。その中で、事業所に対する意見や質問が出され、説明させて頂いた。	家族からは面会時や電話で意見を聞くと共にアンケートで接遇・食事・余暇の過ごし方を聞いている。家族から「節電の取り組み」や「災害時の取り組み」に関して意見が出た事を受けて、緑のカーテン(ゴーヤ)の取り組みや、東北大震災の経験をいかした災害に対する研修等の現状を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の気づきが大切である面からも、運営上の課題と思われる点をノートにそれぞれが記入できる体制を敷いている。それを議題として、全体会議・グループホーム会議の中で、検討している。	職員は日々感じた事を「意見ノート」に記入し、その中から議題として取り上げて合同会議やグループホーム会議で話し合っている。例えば、「昼食作りの新メニュー」や「金銭管理の役割分担」等の意見を取り上げ、運営の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は、勤務表・勤務変更届けにて把握している。また、忘年会や歓送迎会などを通じ、各職員のしづが図れる機会を持っている。やりがい面に於いては、自己啓発の1つの手段として誰もがみれる場所に専門誌を配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量把握として、本人の自己評価と考課者の評価を実施した。評価票を利用したの職員を育てる取り組みは行っていない状況にある。外部研修への参加を各職員年間通じて1回は参加する事が出来た。内部研修も1回/1月の頻度で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府下のグループホーム連絡会の職員交換研修に参加すると共に受け入れを実施した。連絡会へ管理者・職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	過去1年間の入所者はいない状況にあるが、サービス利用前面接を実施し、本人の状態や現在の生活状況等について情報収集し、良好な関係作りの基礎としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	過去1年間の入所者はいない状況にあるが、本人との関係作りと同様に実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去1年間の入所者はいない状況にあるが、社会資源の活用や制度利用は視野に入れていく方針を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの住家として、その中で、個人の役割を持って頂き、日常生活を通じて、一緒に行っている。役割としては、食事準備や来客対応等がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事を通じ、ご家族の参加を呼び掛けると共に、外出がいつでも出来る体制を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接来荘出来ない友人知人からは、電話の取り次ぎも実施している。年賀状などを使用しての支援を試みたが、本人の意向に沿わない形となった為、実施できなかった。馴染みの商店への買い物も実施している。	近隣の馴染みの人が利用者を訪ねて来る時は関係が継続するように職員も適宜入り支援をしている。又、電話を掛ける利用者には取り次ぎの支援をしている。入居前からの利用者の馴染みの店は「サティ」や「かね新商店」で買い物も一緒に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のトラブル発生予防として、席の配置に注意している。また、トラブル発生する事が予想される時は、事前に職員が介入する事で予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了者がいない現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人の意向を確認しながらの支援を心掛けている。また、サービス向上委員会が、アンケートを用い利用者の意向確認している。今年度は、アンケート調査を3回(接遇・食事・娯楽について)、実施した。	契約前の生活の様子や趣味・嗜好を利用者・家族から聞きアセスメントシートに記入している。また日々の関わりで分かった事は追記している。話せない方は表情や仕草や利用者を書いて貰う事で、意向を把握出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を用い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を使用して現状把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施しているケースカンファレンスをモニタリングの根拠として、介護計画に反映している。	ケアマネージャは家族の訪問時に家族や利用者の思いを把握すると共に。医療情報も収集し、ケースカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。モニタリングは月1回行い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の係わりの中で知り得た情報をケースカンファレンスで話す事が出来る体制を構築している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化としては、実施できていないが、社会資源の利用や地域活動を通じ、事業所だけでサービスを完結していない状況である。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校で行われた行事への参加や町内で実施された文化祭への参加、日常的には買い物等を通じ、生活の質の向上を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が2回/1月の頻度で往診している状況にあり、必要に応じた他の医療機関への診察を実施し、入院時には情報提供すると共に医療機関でのケースカンファレンスにも参加している。	家族がかかりつけ医の受診時に同行する時には、利用者の様子や健康状態を詳しく記入した「情報提供書」を医師に渡している。事業所とかかりつけ医とは、定期受診や相談ごとなどで連携を取っている。協力医は月2回往診があり、緊急時や24時間対応は可能で、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスには看護師が参加すると共に、日常的に相談されている現状がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて情報提供している。また、入院時に於いてもケースカンファレンスへの参加や職員が面会を通じ、情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を書面にて明確化しており、ご家族様に説明し、意向を聴いているが、定期的に意向確認が出来ていない状況である。	「重度化した場合における対応に関わる指針」が明文化されている。契約時に説明をして家族の意向を聞き、利用者の容態が変化してきた時には、再度話し合っって思いを聞いている。職員には看取りの内部研修を実施し、看取りをする方向で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は実施できていない。急変時の対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて、災害時の地域との協力体制が重要である趣旨の話を持ったが、構築されていない状況にある。避難訓練は、昼間想定でしか行っていない。地域で実施されている防火活動への参加の呼びかけをして頂く事となっている。	避難訓練は昼間想定で年2回行い、1回は消防署立会いのもとで行っている。備蓄は準備している。しかし夜間想定訓練や地域の協力体制等の災害対策は不十分である。	夜間想定訓練を早急に行うと共に地域と協力体制を構築していく為にも、地域の防災訓練に参加するなど、地元の自主消防団と連携していく事をお勧めする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護についての内部研修の中でプライバシーについても取り上げ、各職員に伝えた。	法人研修で「倫理」について学び、事業所内で伝達研修をし共有している。利用者の人格を尊重し言動には気をつけている。職員の気になる言動があった時はお互いにその都度注意をし合い、話し合っている。トイレは鍵がかかりプライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状態に応じて、まずは問いかけ実施するか否かの判断をする事で意思決定して頂けるような支援を心掛けている。また、食事に対して選択メニューを試行した。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の本人の状態を考慮し、適宜食事時刻や入浴時刻をずらしての支援等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望として自分で衣類を選びたい方には、一緒に外出し購入して頂く支援が実施出来た。日常的に起床後に、着替え・整髪に対する支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	サービス向上委員会にて逢食事に対するアンケート調査を実施し、分析結果を基に献立に反映させた、また、イベント開催時に選択しての食事を提供した。日常的には、準備から片付けまで個人の能力に応じて、役割作りも含め、一緒に実施している。	三食とも手作りで、嗜好の調査をして献立に反映している。米研ぎや炒め物、切る、テーブル拭き、配膳、下膳、洗い物等や来客者にお茶を出すなど、利用者の力を活かして役割分担をしている。昼食バイキングをして、選んで食べる楽しみを用意したり、外食は大好きな回転寿司や和食の店そして喫茶店に行きコーヒーを飲むのを楽しみにしている。花見には弁当を持って行き戸外で食べるのも楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに対しては、1週間の献立に偏りがないように配慮している。水分量の把握を記録し、随時に補給を心掛けた支援を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の残像能力を活かす形での口腔ケアの実施に取り組んでいる。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄を記録し、そのパターンの把握に努めている。また、それに基づいた、トイレ誘導等の支援を実施している。	排泄記録で排泄パターンを全職員が共有し、個々に合わせて誘導する事で、トイレでの排泄が可能となり失禁が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が長期間ないようにコントロールすると共にフルーツの提供、運動を日常生活の中で取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態により予定時間を変更している。また、工夫として入浴時に一緒に歌を歌う、マッサージするといった支援を実施している。	入浴時間は朝から夕方まで何時でも可能である。週2～3回を基本にしているが、希望があれば毎日でも入れる。柚子湯や入浴剤そして1対1介助でゆっくり楽しめる。拒まれる人はスタッフの声の掛け方に工夫をしたり人を変えたり夜間に入って貰う事で、成功する事が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、照明の明暗調整、温度管理、日中の活動を心掛けている。不眠症状が出現した方に対しては、温かい飲み物を提供したり、傾聴する事で、精神的な安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量・副作用についての情報が集約された紙面を各スタッフがいつでも見れる状況を整備している。また、変薬があった時には、更新している状況である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣味等は、利用前面接時に情報収集し、書面にて誰もがみれる様に整備している。また、残存能力を活かした支援を日常生活の中で取り入れている。ゴミだしや米とぎ、買い物付き添い等を実践している。戸外へ出る事も気分転換の一つとして個人の状況に応じて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、正月や法事など自宅でのイベントがあった場合には、外出されている方がある。また、不定期であるが、ご家族と共に外出され、外食を楽しまれている方もある。	積極的な外出支援を心掛け、日常的に周辺散歩や近隣のお寺そして馴染みの店へ買い物に小グループで行っている。個別対応でサティまで買い物に行ったり、喫茶店にコーヒーを飲みにも行っている。ドライブで花見・紅葉狩り・初詣等、季節の移り変わりを楽しみに出掛けている。	

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を所持されている方がある。日常的に金銭を使用する機会が少ない現実があるが、外出時に本人にお金を手渡し、使用の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りは、殆どないが、電話を利用し、架ってくる時や本人から架ける事も希望に沿う形で実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人の利用者が共有スペースで不快な音を立てたりした時は、職員が他利用者様の事も考え、仲裁している。窓にはカーテンを設置し、照明器具は白熱灯を使用せず、温度管理をエアコン、湿度管理を加湿器を用いて行っている。また、食事時間の席として、椅子を引いても当らない様にスペースを確保している。	居間の南側の窓からは四季折々の眺めが楽しめ、陽の光を二重カーテンで調節している。壁には「思い出」として、利用者それぞれの思いを書いて飾っている。ソファの位置を変える事で、大勢の人が集まれ車椅子でも皆の輪の中に入れる様にする等、居心地良く過せるようにしている。テレビのコーナーを設けてあり、皆に気兼ねなく見たい番組が見られる様にしてあり、食事中は消して懐メロや懐かしい童謡を流している。加湿器や空調で湿度や温度を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や、テーブルの位置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものの持ち込みを実施している。また、本人の趣味である植物の育成を自室でされている方もある。乾燥時期には、加湿器を設置して本人の状態に対する配慮もしている。	居室は洋間で各部屋にクローゼットがついている。馴染みの物はベッドや布団、テーブルやタンス・鏡台、大切な家族の写真がきれいに飾ってある。ポスター・カレンダー・時計で生活感を出し、自分の作品や鉢花や観葉植物の世話を楽しむ等、自宅と同じ状態にして、居心地良く過している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、使用中であるかそうでないかが一目でわかる様に札を設置している。また、季節感のある作品を共有スペースに貼る等し季節への気付きがある様にしている。自室には、表札を掲げている。		